



## 深夜4時

私は暗い気分で深夜に目が覚める。

「あれ…夢…？」

クラスメイトに犯されて母乳が吹き出し吸われるという  
忘れたくても忘れないような最悪の夢を見ていた。

はあ…気分わるい…でも夢でよかった…

気分転換に神社の外へ出ると、なぜか無意識に  
裏小屋へ入ってしまった。

「あれ…なんで…」

そこには種山くんがいた。  
下腹部からは、熱さがゆっくりと強くなる…。



「え、いったいなにが起こって…あぁ♡」

お腹からは謎の紋章が浮かび鼓動していた。

「まさか…あれは…夢じゃないって…」

今起きている理解に追いつかず、ただ子宮だけが  
白い液体を欲しがっていた…。

## 謎の淫紋

前回の薬(リアルポニーユド)の力と巫女の魔力が、  
超常的な結合反応により現れた愛の印。  
交わった精子の持ち主が、近づけば近づくほど  
追い求め、子宮が疼くようになる。  
意思とは逆の行動をするようになってしまうなど、  
効果は未知数。

自分の意思とは逆に、体が勝手に動く…。

イヤッいらないッ  
それ早くしまってッ

拒否をしても淫紋は刺激を増して  
強くなっていた…。



これ入れちゃったら子宮壊れちゃう…

んあ、♡

んあ、♡

んあ、♡  
んあ、♡  
んあ、♡

だめえ…♡

そんな予感しかしなかった私は  
必死に自身の体を止めようとする

ちゅ♡  
ちゅ♡  
ちゅ♡





